

# 予選落ち、メンバー不足なんの



第4中継所でタスキを受け取り力走する関西学連選抜の松尾維大選手(左)(21日午前10時1分、滋賀県高島市で)＝大久保忠司撮影

## 和歌山大・松尾選手 学連選抜で雪辱 5人抜き

琵琶湖畔で21日に開かれた「びわ湖大学駅伝」(読売新聞社など主催)では、関西のレベルアップを図るため、関西学連選抜が初めて結成された。「学生最後の大会を、琵琶湖で締めくくりたい」と個人資格で予選会に臨み、メンバー入りを果たしたランナーが湖国路を快走した。

△本文記事1面▽



5区(8・8キロ)の和歌山大4年松尾維大選手(21)は、2006年の大会にも1年生ながら同大学の4区担当として出場。区間16位だったが、チームは26校中25位とふるわず、雪辱を誓っていた。

だが、同大学はその後、2年連続で予選落ち。今年はメンバーが足りず、予選会にすら出られなかったが、今年、大会5年を記念する選抜チームが編成されることを知って、個人資格での出場に望みをかけた。

予選会(9月30日)前に左足首をねんざするアクシデントもあったが、「絶対にあきらめたくない」と痛みをこらえて参加。1万円の自己ベストに近いタイムを残し、選抜入りを決めた。

21日は、5人抜いて9番目でたすきをつないだ。松尾選手は「出場できなかった2年間の思いを込めて走った。完全燃焼できた」と晴れやかな表情を浮かべた。

県立西宮高校時代から現在も当院に通院されている  
松尾 維大様が、十一月二十一日に開催された  
びわ湖大学駅伝で素晴らしい活躍をされました。